

第1回学校の在り方地域懇談会（八街北中学校区）

次 第

日 時 令和7年8月20日(水)

午後2時00分

場 所 八街北中学校会議室

1 開 会

2 教育長挨拶

3 自 己 紹 介

4 議 題

(1) 小中学校の現状と課題について

(2) 児童生徒数の推計について

(3) 県内市町村の取組事例について

(4) その他

5 閉 会

「学校の在り方地域懇談会」資料（各小中学校の現状と課題）

【八街市立朝陽小学校】

※児童・生徒が最も多かった時期（◇）と現在（◆）とを比較して記入してください。		教育活動の変化や留意事項	
		最も多かった時期（平成14年度） 児童数：1,004人 教員数：40人	現在（令和7年度） 児童数：332人 教員数：25人
学校の雰囲気・人間関係		児童生徒数の多寡により、学校全体や学級内の活気、人と人との関わり方、異学年交流、教職員と児童生徒の関係性など ◇同じ学年内での多様な関わりが自然にできた。 ◆現在は児童生徒数の減少により、人間関係が固定化しやすい。(1小1中、1学年・2クラス) ◆児童数が少なくなったことにより、一人ひとりの児童理解がより図られている。	
授業や学習活動 ・学校行事		授業の進め方や学習形態の変化、少人数指導やICTの活用状況、学校行事の規模や内容、運営方法など ◇かつては学年ごとの人数が多く、運動会では学級対抗(1学年・最大5クラス)を実施し、学校行事は盛況だった。 ◇学年の児童数が大所帯となるため、行事の大小問わず職員の打合せを必要とする。 ◆ICT機器の導入や活用が進み、個に応じた学習や協働的な学びの機会が確保されている。 ○一人一台タブレットPC導入(R2)、電子黒板導入(R4)	
教職員体制・学校運営		教職員の人数や配置、年齢構成、兼務の実態、校務分掌の在り方、管理職や主任の負担感、外部支援者の活用状況など ◇職員数が多く、学年(学級)以外の校務分掌が少なかった。 ◆児童数に合わせ教職員数も減少しており、教職員一人ひとりの業務負担は増加傾向にある。 ◆職員の年齢構成に偏りが見られる。 ○H4市制施行により「八街市立朝陽小学校」となる。本校から分離し、「八街市立八街北小学校」が開校した。 ○SSSや教頭マネージメント支援員などの積極的な活用が図られている。	

「学校の在り方地域懇談会」資料（各小中学校の現状と課題）

【八街市立朝陽小学校】

※児童・生徒が最も多かった時期（◇）と現在（◆）とを比較して記入してください。	教育活動の変化や留意事項	
	最も多かった時期（平成14年度） 児童数：1,004人 教員数：40人	現在（令和7年度） 児童数：332人 教員数：25人
施設の維持管理 ・空間の使い方		施設の維持管理、空き教室や特別教室の利用方法、共有スペースの活用、防災・安全面への対応など
<ul style="list-style-type: none"> ◆空き教室の増加 ◆特別支援学級の増加 ◆施設としてのプールの今後の維持・管理(水泳学習の民間委託を受けて) <ul style="list-style-type: none"> ○新校舎・体育館建築開始(H25) ○R5セーフティープロモーションスクール認証 		
保護者や地域との関わり ・子どもを取り巻く環境		PTA活動や地域ボランティアの関わり、登下校の安全体制、放課後の過ごし方、地域行事や外部関係団体との連携状況など
<ul style="list-style-type: none"> ◆地域の見守りボランティアの高齢化等に伴う減少 ◆共働き世帯の増加、複雑な家庭事情を抱える児童生徒の増加、外国にルーツのある児童の増加 <ul style="list-style-type: none"> ○区の新設 藤の台区(H4)、希望の杜区(H14)、八街・榎戸学園区(H15) ○登下校の安全確保 藤の台区を児童を対象とするスクールバスの導入(R3) 		
部活動・クラブ活動		活動の種類や実施状況、児童生徒の参加人数、教職員の指導体制、他校との合同実施や地域クラブとの連携など
<ul style="list-style-type: none"> ◆コロナ禍をきっかけに、金管部・合唱部の活動がなくなった。(現在、復活の見込みもない) 		

「学校の在り方地域懇談会」資料（各小中学校の現状と課題）

【八街市立八街北中学校】

※児童・生徒が最も多かった時期と現在とを比較して記入してください。	教育活動の変化や留意事項	
	最も多かった時期（平成19年度） 生徒数：496人 教員数：29人	現在（令和7年度） 生徒数：227人 教員数：22人
学校の雰囲気・人間関係	児童生徒数の多寡により、学校全体や学級内の活気、人と人との関わり方、異学年交流、教職員と児童生徒の関係性など	
授業や学習活動 ・学校行事	○和やかで親しみやすい雰囲気である。個を見ても素直で誠実な生徒が多い。 ○学校生活や学習に前向きに取り組む生徒が多い。特に行事では学級・学年が一丸となり、盛り上がる。 ●一小一中の学区であり、9年間で人間関係が固体化し、友人関係のトラブルは長引く傾向がある。 ●家庭環境の複雑化により、悩みを抱える生徒も増えている。	
教職員体制・学校運営	授業の進め方や学習形態の変化、少人数指導やICTの活用状況、学校行事の規模や内容、運営方法など	
	○毎時間の振り返り等をフォームにしたり、電子黒板に画像や動画を表示したりするなど、ICT機器を効果的に活用し、授業の効率化とわかりやすく展開を実践している。 ○毎時間の授業の板書を写真に記録し、Classroom上でいつでも振り返りができるように活用している。 ○行事では、運営等に端末を活用しスムーズに行えるように工夫をしている。安全の観点では、配信等を柔軟に活用し、熱中症対策を実施している。 ●機器の管理や運用について、担当ベースではしっかりと把握、検討が必要である。 ●ICT機器の活用を加速度的に進めてきたが、アナログとの併用や効果の検証をする必要がある。	

「学校の在り方地域懇談会」資料（各小中学校の現状と課題）

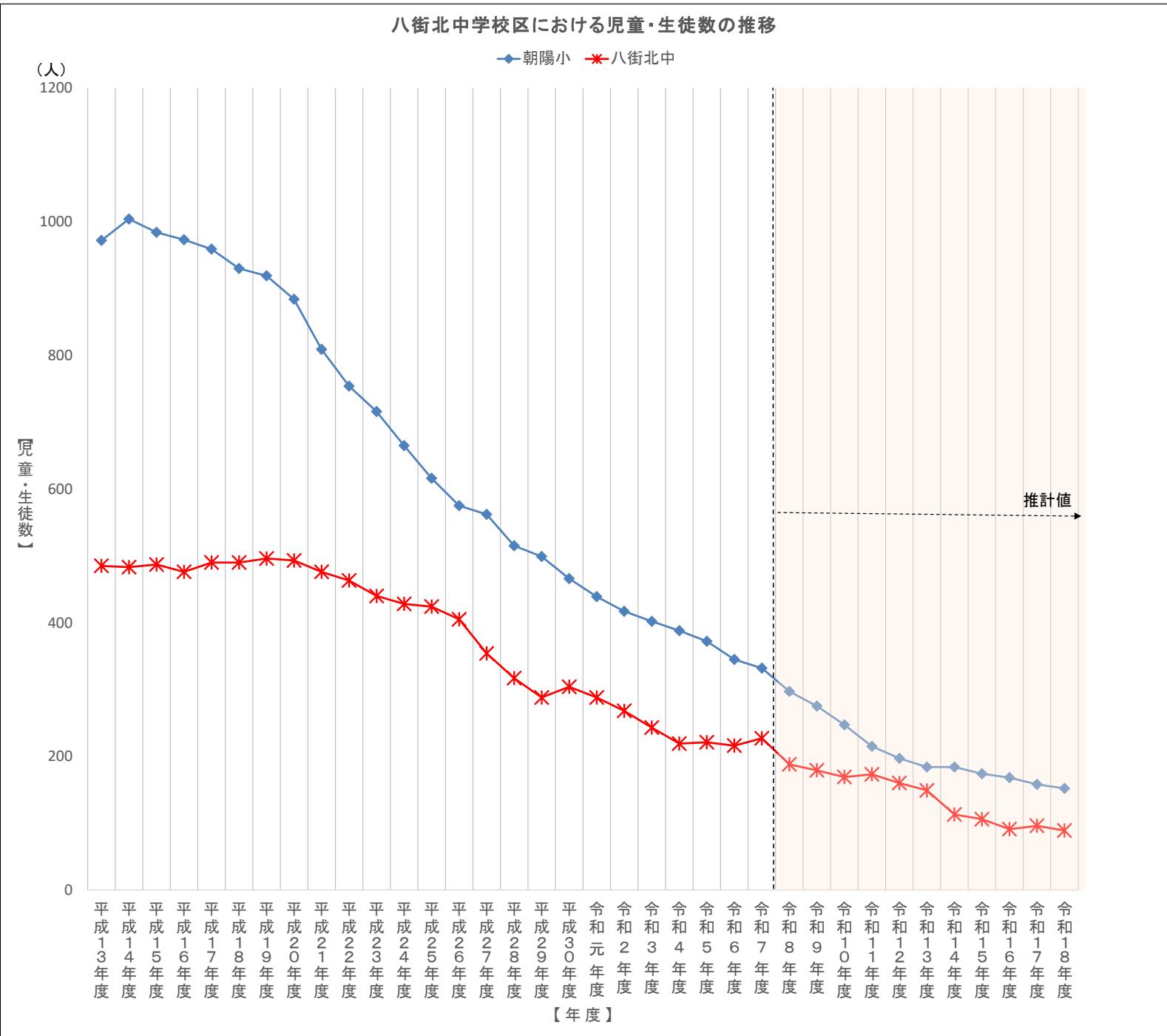
【八街市立八街北中学校】

※児童・生徒が最も多かった時期と現在とを比較して記入してください。	教育活動の変化や留意事項	
	最も多かった時期（平成19年度） 生徒数：496人 教員数：29人	現在（令和7年度） 生徒数：227人 教員数：22人
施設の維持管理 ・空間の使い方	<p>施設の維持管理、空き教室や特別教室の利用方法、共有スペースの活用、防災・安全面への対応など</p> <ul style="list-style-type: none"> ○空調や自動販売機、LED化工事など、適宜改修が入ることで、利便性や快適性の向上が図られている。 ○令和7年度は自校のプールで水泳の授業を実施。市内で唯一、水泳授業の外部委託をしていない。（次年度以降は要検討） ○空き教室も増えているが、学習室等として効果的に活用している。しかし、今後更衣室等を整備することを見据えると、教室の運用は難しさもある。 ●令和7年度で29年目の校舎であり、雨漏りや破損等、劣化が見られる箇所が増えてきている。 ●校舎が一直線ではないため、各フロアに死角が生じる箇所がある。 ●鍵が多く、管理がしづらい。鍵の交換が随時入っており、マスターキーも2種類存在するなど、点検等も不便が生じる。 	
保護者や地域との関わり ・子どもを取り巻く環境	<p>PTA活動や地域ボランティアの関わり、登下校の安全体制、放課後の過ごし方、地域行事や外部関係団体との連携状況など</p> <ul style="list-style-type: none"> ○PTA活動は、いわゆる組織としての部門を廃止し、都度ボランティア制としている。役員の方々をはじめとし、協力的で、とても和やかな雰囲気で活動ができている。 ○登下校においてはスクールバスを導入し、地域の協力を得ながら運行している（R3～）。 ●外国にルーツのある生徒の増加とそれに伴う支援の難しさ。 ●複雑な環境を抱える家庭の増加とそうした家庭との協力体制構築の難しさ。 	
部活動・クラブ活動	<p>活動の種類や実施状況、児童生徒の参加人数、教職員の指導体制、他校との合同実施や地域クラブとの連携など</p> <ul style="list-style-type: none"> ○現在10部活動が活動を実施している。部活動を通じて、先輩後輩といった縦割りの社会や、何かをやり遂げた達成感や充実感を味わうことができる機会となっている。 ●顧問の配置については、人数や経験、専門性を鑑みると難しい状況がある。 ●生徒数の減少により、部活動も減少傾向にある。 ○部活動地域展開の推進により、R7から陸上部、剣道部が休日の活動を地域へと移行している。また、特別部活動であった水泳部はR7より完全に外部へと委託される形となった。 	

(単位:人)

八街北中学校区における児童・生徒数の推移

学校 年度	朝陽小	八街北中
平成13年度	972	485
平成14年度	1004	483
平成15年度	984	487
平成16年度	973	476
平成17年度	959	490
平成18年度	930	490
平成19年度	919	496
平成20年度	884	493
平成21年度	809	476
平成22年度	754	463
平成23年度	716	440
平成24年度	665	428
平成25年度	616	424
平成26年度	575	405
平成27年度	562	354
平成28年度	515	317
平成29年度	499	288
平成30年度	466	304
令和元年度	439	288
令和2年度	417	268
令和3年度	402	243
令和4年度	388	219
令和5年度	372	221
令和6年度	345	216
令和7年度	332	227
令和8年度	297	188
令和9年度	275	179
令和10年度	247	169
令和11年度	215	173
令和12年度	197	160
令和13年度	184	149
令和14年度	184	113
令和15年度	174	106
令和16年度	168	91
令和17年度	158	96
令和18年度	152	89



学級編制推移一覧

八街北中学校

(各年5月1日現在)

学年 年度	1 年		2 年		3 年		合 計	
	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数
平成13年度	5	165	5	162	4	158	14	485
平成14年度	4	147	5	172	5	164	14	483
平成15年度	5	170	4	147	5	170	14	487
平成16年度	4	157	5	172	4	147	13	476
平成17年度	5	165	4	155	5	170	14	490
平成18年度	5	173	5	164	4	153	14	490
平成19年度	5	159	5	173	5	164	15	496
平成20年度	5	162	5	161	5	170	15	493
平成21年度	5	151	5	163	5	162	15	476
平成22年度	5	151	5	151	5	161	15	463
平成23年度	4	140	5	151	5	149	14	440
平成24年度	4	142	4	141	5	145	13	428
平成25年度	4	139	4	143	4	142	12	424
平成26年度	4	128	4	135	4	142	12	405
平成27年度	3	90	4	127	4	137	11	354
平成28年度	3	100	3	90	4	127	10	317
平成29年度	3	103	3	97	3	88	9	288
平成30年度	3	100	3	106	3	98	9	304
令和1年度	3	82	3	99	3	107	9	288
令和2年度	3	87	3	82	3	99	9	268
令和3年度	2	74	3	87	3	82	8	243
令和4年度	2	58	2	74	3	87	7	219
令和5年度	3	88	2	58	2	75	7	221
令和6年度	2	67	3	90	2	59	7	216
令和7年度	2	66	2	68	3	93	7	227
令和8年度	2	57	2	64	2	67	6	188
令和9年度	2	56	2	58	2	65	6	179
令和10年度	2	55	2	56	2	58	6	169
令和11年度	2	62	2	55	2	56	6	173
令和12年度	2	43	2	62	2	55	6	160
令和13年度	2	44	2	43	2	62	6	149
令和14年度	1	26	2	44	2	43	5	113
令和15年度	1	35	1	26	2	45	4	106
令和16年度	1	30	1	35	1	26	3	91
令和17年度	1	31	1	30	1	35	3	96
令和18年度	1	28	1	31	1	30	3	89

※学級数は普通級数を児童数は総児童数を表示している。

※令和8年度からは推計を表示している。

学級編制推移一覧

朝陽小学校

(各年5月1日現在)

年度	学年		1年		2年		3年		4年		5年		6年		合計	
	学級数	児童数	学級数	児童数												
平成13年度	4	150	5	162	5	171	5	164	5	174	4	151	28	972		
平成14年度	5	174	5	154	5	171	5	166	5	162	5	177	30	1,004		
平成15年度	5	154	5	172	4	156	5	172	5	168	5	162	29	984		
平成16年度	4	155	5	158	5	166	4	159	5	171	5	164	28	973		
平成17年度	5	151	4	151	5	160	5	164	5	162	5	171	29	959		
平成18年度	5	143	5	153	4	149	5	160	5	161	5	164	29	930		
平成19年度	5	141	5	145	4	155	4	155	5	159	5	164	28	919		
平成20年度	4	128	5	140	4	145	4	150	5	161	5	160	27	884		
平成21年度	3	89	4	126	4	139	4	146	4	149	5	160	24	809		
平成22年度	3	110	3	89	4	125	4	140	4	144	4	146	22	754		
平成23年度	3	101	3	111	3	89	4	125	4	142	4	148	21	716		
平成24年度	3	94	3	98	3	109	3	92	4	126	4	146	20	665		
平成25年度	3	93	3	96	3	102	3	109	3	90	4	126	19	616		
平成26年度	3	88	3	90	3	96	3	103	3	108	3	90	18	575		
平成27年度	3	78	3	88	3	85	3	100	3	102	3	109	18	562		
平成28年度	2	62	3	77	3	87	3	85	3	102	3	102	17	515		
平成29年度	3	84	2	64	3	77	3	88	3	85	3	101	17	499		
平成30年度	3	73	3	83	2	65	3	76	3	84	3	85	17	466		
令和1年度	2	62	3	73	3	84	2	63	3	73	3	84	16	439		
令和2年度	2	57	2	61	2	73	3	87	2	64	3	75	14	417		
令和3年度	2	57	2	58	2	63	2	72	3	88	2	64	13	402		
令和4年度	2	53	2	55	2	59	2	64	2	71	3	86	13	388		
令和5年度	2	62	2	56	2	57	2	60	2	66	2	71	12	372		
令和6年度	2	43	2	63	2	56	2	58	2	59	2	66	12	345		
令和7年度	2	46	2	45	2	64	2	57	2	60	2	60	12	332		
令和8年度	1	30	2	40	2	45	2	65	2	57	2	60	11	297		
令和9年度	2	41	1	26	2	40	2	46	2	65	2	57	11	275		
令和10年度	1	35	1	35	1	26	2	40	2	46	2	65	9	247		
令和11年度	2	37	1	30	2	36	1	26	2	40	2	46	10	215		
令和12年度	1	33	1	32	1	30	2	36	1	26	2	40	8	197		
令和13年度	1	31	1	28	1	32	1	31	2	36	1	26	7	184		
令和14年度	1	30	1	27	1	28	1	32	1	31	2	36	7	184		
令和15年度	1	29	1	26	1	27	1	29	1	32	1	31	6	174		
令和16年度	1	28	1	25	1	26	1	28	1	29	1	32	6	168		
令和17年度	1	26	1	24	1	25	1	26	1	28	1	29	6	158		
令和18年度	1	25	1	23	1	24	1	25	1	27	1	28	6	152		

※学級数は普通級数を児童数は総児童数を表示している。

※令和8年度からは推計を表示している。

児童生徒数推移一覧（抜粋）

年度 学校	平成 13 年度		令和 7 年度		令和 18 年度	
	学級数	児生童徒数	学級数	児生童徒数	学級数	児生童徒数
八街中学校	24	920	14	461	11	367
八街東小学校	28	1,002	18	598	17	481
八街北小学校	16	551	8	224	6	160
合計（児童数）		1,553		822		641
八街中央中学校	25	958	13	489	8	283
実住小学校	32	1,226	20	655	15	420
交進小学校	18	630	6	159	6	108
合計（児童数）		1,856		814		528
八街南中学校	18	665	6	206	4	114
笹引小学校	12	293	6	90	6	72
二州小学校	9	248	6	96	6	79
二州小学校沖分校	4	57	2	6	4	15
川上小学校	21	734	6	124	6	91
合計（児童数）		1,332		316		257
八街北中学校	14	485	7	227	3	89
朝陽小学校	28	972	12	332	6	152
合計（児童数）		972		332		152

※学級数は普通級数を児童数は総児童数を表示している。

※令和 18 年度は推計を表示している。

取組事例Ⅰ（併設型小中一貫教育：長柄町）

I. 取組の概要

- (1) 長柄小学校・日吉小学校の2小学校を令和11年4月に統合
- (2) 統合した小学校を長柄中学校敷地に設置し小中一貫教育を推進

2. 取組の基本的な考え方

- (1) こどもたちにとってより良い教育環境の構築と質の高い学校教育を実現する。
- (2) 小学校の学校規模を複式学級が生じない規模とし、少なくとも1学年1学級以上の児童数を確保する。

年度	学校名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	小計	合計
令和6年度	長柄小学校	18名	19名	13名	12名	21名	19名	102名	180名
	日吉小学校	13名	14名	13名	14名	13名	11名	78名	
令和12年度	長柄小学校	9名	9名	18名	16名	18名	5名	75名	132名
	日吉小学校	7名	5名	11名	10名	12名	12名	57名	

3. 意見の集約

- (1) 小学校のあり方についてのアンケートを実施。

【対象者】

- ◇保護者(こども園、小学校)
- ◇民生委員
- ◇青少年相談員
- ◇自治会長
- ◇教職員(こども園、小学校、中学校)
- ◇児童・生徒(小学校5・6年生、中学校1・2年生)

【主な意見】

- ◇子どもの人数が年々減少し、学級の児童数が非常に少ない。
- ◇学校行事等は、児童数が多い方ができることの幅が広がり、選択肢が増える。
- ◇人数が多い方が、多様な人格と触れ合うことができ、競争心が芽生えるだけではなく、協調性が育まれる。友達関係が広がる。

- (2) 住民・保護者説明会の実施(令和7年度～, 5回(予定))

4. 特記事項

- ◇併設型小・中学校の形態をとることで、小学校と中学校の垣根を越えて9年間を通じた教育課程を編成し、学習指導や生徒指導の充実を図る。
- ◇統合後は、児童の通学距離に応じてスクールバスを運行し、登下校の利便性と安全性を両立する。
- ◇統合後の学校は、日々の学校教育活動や地域活動の施設であるだけでなく、災害時の避難施設や防災拠点としての機能を確保する。

取組事例2（義務教育学校：成田市）

I. 取組の概要

- (1) 下総地区の4つの小学校（滑河小学校、小御門小学校、名木小学校、高岡小学校）と1つの中学校（下総中学校）を平成26年4月に統合し、併設型小・中学校として開校
- (2) 平成29年度から義務教育学校へ移行し、「成田市立下総みどり学園」開校

2. 取組の基本的な考え方

- (1) 一学年複数学級が確保できる12～18学級の規模となるよう学校規模の適正化を図る。
- (2) 9年間を一体のものと捉え、発達段階を踏まえた一貫性の高い教育を行う。

学年編成	学習活動
前期（1～4年生）	自分と向き合う：学習や集団生活に必要な基礎・基本を身に付ける
中期（5～7年生）	他者と向き合う：自ら学ぶ習慣や良好な人間関係を築く力を身に付ける
後期（8～9年生）	将来や社会と向き合う：進路決定に向け、自律と自立に基づいた行動・言動を身に付ける

3. 意見の集約

- (1) 下総地区住民説明会を実施（平成20年7月、計2回）
- (2) 各小中学校保護者説明会を実施（平成20年7月、計8回）
- (3) 下総地区小中連携推進委員会を発足（平成23年7月）

4. 特記事項

- (1) 5,6年生では、ほとんどの教科で学級担任ではなく、教科担任による授業が行われている。
- (2) 学校統合後は、児童生徒の安全確保のため、前期課程の児童はスクールバスを利用して登下校している。
- (3) 学校統合、廃校となる学校の土地・建物については、地域での市民利用等、市民ニーズを踏まえて利活用している。
 - ◇ 旧滑河小学校は、文化財保存展示施設として整備し、また、体育館を地区運動施設として開放している。
 - ◇ 旧名木小学校は、主に自閉症などの知的障がいがある方を対象とした障害福祉サービス事業所として活用している。
 - ◇ 旧高岡小学校は、体育館及びグラウンドを地区運動施設として開放している。

取組事例3（小規模特認校：袖ヶ浦市）

1. 取組の概要

(1) 袖ヶ浦市立平岡小学校幽谷分校を小規模特認校に指定

【小規模特認校指定後の児童数の推移】

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
学区外児童	6名	7名	5名	5名	5名	1名
学区内児童	9名	10名	7名	6名	7名	2名
計	15名	17名	12名	11名	12名	3名

(2) 袖ヶ浦市立平岡小学校幽谷分校を袖ヶ浦市立平岡小学校本校に統合

2. 取組の基本的な考え方

(1) 主体的・対話的で深い学びの実現を担保する。

(2) 児童の増加を図り、複式学級の解消を目指す。

3. 意見の集約

(1) 学区内住民等の懇談会等を実施(平成29年～平成31年, 計5回)

(2) 在学児童の保護者の懇談会等を実施(平成29年～平成31年, 計5回)

(3) 未就学児の保護者を対象に意向調査を実施(計2回)

【主な意見】

◇少人数すぎる教育環境が不安。

◇分校の伸び伸びとした教育環境を望んでいる。

◇途中から(5年生から)本校に通わせる位なら初めから本校に通って友達を作ってほしい。

(4) 幽谷分校のあり方検討委員会の設置(平成30年～平成31年, 計4回)

4. 特記事項

◇児童の増加を図るため、小規模特認校制度を導入したが大幅な増加には至らなかった。

◇児童にとってどのような教育環境が望ましいかを争点として意見を集約した。

◇平成31年4月入学の児童が4学年修了時となる令和4年度末をもって統合することとした。

◇本校と分校を統合後、旧分校の修学区域はスクールバスを運行することとした。

◇本校と分校を統合後、旧分校については事業者へ貸付けることとしたが、引き続き避難所や投票所として利用できるよう覚書を締結した。